2017年（平成29年）
第111号
（3月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

涅槃会式典　～インターネット配信で全国に配信～

釈尊の生涯を振り返り、その入滅時に説かれた「自灯明・法灯明」の意義をかみしめて仏道精進を誓う「涅槃会（ねはんえ）」が２月15日、大聖堂（東京・杉並区）はじめ全国各教会で行われました。

大聖堂の式典には約3,100人の会員が参集。聖壇には釈尊入滅の様子を描いた涅槃図が掲げられ、式典の冒頭には、その内容を表した映像作品が上映されました。佼成合唱団のコーラスに合わせ、北関東支教区青年女子部員16人による奉献の儀が行われ、続く読経供養では導師を務めた庭野光祥次代会長が、庭野日鑛会長の啓白文を奏上しました。

次に、会員を代表して笹原身知子・世田谷教会長が体験説法を行いました。結婚後、体の不調を訴えて自宅に引きこもる夫に対し、責めてばかりいたが、救われを求めて教会に足を運び、信仰を深めた日々を披歴。サンガと触れ合う中で自らを内省し、苦は自己中心な自分を仏道に導くためのものであり、**「仏の大きな慈悲」**と気づき、回復して以来、家族を支えてくれている夫に感謝の言葉を述べました。

また、５年前に教会長として着任した世田谷教会では、会員同士の触れ合いの場づくりを壮年部員が率先して取り組んでいることを紹介。青年部の仲間の輪が広がり、教えを学びたいという意欲の向上につながっていると報告し、さらなる布教伝道を誓願しました。

この後、法話に立った庭野会長は、「時間」について触れ、過去や未来の時間は使うことができないが、「今」という時間だけが自由に使うことができると説明。**「今日、ただ今といったその時間を大切に生きることが、人生を意義あるものにしていくことにつながる」**と述べました。

その上で、**「精進しようと決意したら、その時に始めないと何も始まりません。私たちが変わるとしたら『今なんだ』、決定（けつじょう）したら『今から始める』**と。そうでないと私たちは一生精進できないことを教えて頂いています」と教示。変化にやまない諸行無常の真理を認識し、決定即実践の大切さを説きました。（一部本部ホームページより抜粋）

大聖堂で行われた「涅槃会」。聖壇には、釈尊入滅の様子を描いた涅槃図が掲げられた（本部ホームページより）

インターネット配信後、佐藤教会長より**「笹原教会長さんのお説法では心の持ち方、心の底から思うことの大切さを教えて頂き、会長先生のご法話では、心や時はなかなか見えないが、人を思う態度は見え、時間も感じることができる。今という時間は一回限りで、一日がどんどん消え去っていく。一瞬一瞬が積み重なって一生になる。今を大事にしていくことが大切」**と、かみしめて頂きました。

そして、善いことと分かっていてもなかなか出来ないことから**「先延ばしにしない、即実践の大切さを言われた。心の持ち方で仏の世界、地獄の世界になるとし、慈悲の心を持つと仏の世界が現れ、怒りの心を持つと地獄の世界が現れる。物事に執着せず功徳を見出していきましょう」**と一層の精進を促し、式典は終了となりました。

時事刻々

シンガーソングカウンセラーという一風変わった肩書を持つ古川秀明氏。先日、古川氏の話を聞く機会がありました。自作の歌をライブしながらの講演会は見もの（聞きもの？）でした▼子どもたちや母親を中心にカウセリングしている講師の話や歌を聞き、勇気や元気をもらった人も多いことでしょう。時には笑いを、時には涙をさそい、時間を忘れる講演会でした▼人間の母は子育ての本能は持っていません。動物は母親になれば、自然に子育てします。まわりの人が母親を応援しないといけないと、古川氏は語ります▼「中国語で『まぁ』韓国語で『おんま』日本語で『おかあさん』。国で呼び名は違っても。母の願いはみな同じ。子どもをいくさにやりたくない」▼古川氏の歌は訴えます。「政治も男も軍隊も、母の愛にはかないません。我が子の命を守りましょう。世界じゅうの母の力で」▼仲よく暮らせる社会、対立のない平和な世界を築くには、母親こそが主役です。

今月のことば　～「肯定的か、否定的か」～　青年女子部長　井上 侑香

今月は、女子部長の井上が担当させて頂きます。どうぞ、宜しくお願い致します。

３月の会長先生のご法話は、**「肯定的か、否定的か」**です。この言葉を見たとき、○と×を思い浮かべ、私はいつも物事を×に見ているなと思いました。会長先生は、**「私たちは自分の思い通りにならないことを不満に思い、マイナスのこととしてみる傾向があるようです。野菜農家にとっては恵みの雨が、洗濯物を干したり、観光を楽しんだりする人にとっては恨みの雨になるように、心は自分に都合よく働くことが多いのです。ただ、『嫌だ』『なんでこんなことに』と不満に思ったところで、現実はどうなるものでもありません。ならば、『いやだ』と思うその感情をいったん離れ、客観的に、そして肯定的に現象を観察してみてはどうでしょうか。視野を広げると心も豊かになると思うのです」。そして、「肯定的に受け止めれば、その瞬間からいま・ここの苦しみや悲しみが和らぐばかりか、のちの人生の充実につながるエネルギーが蓄えられると思うのです」**とおっしゃっています。

私は京都教会に来て２年半ほどで女子部長のお役を頂きました。昔から京都教会に居たわけではなく、小さい頃から教会が嫌いで、最近になって教会活動をするようになった私がなぜと思う気持ちが消えず、女子部長でいることが不安で、とても嫌でした。

お手取りに行かなければならないと思いながら、お手取りに行く時間が無い、お手取りの仕方がわからない、行っても何を話していいかわからないなど否定的な思いがあり、ずっとお手取りにも行けないままでした。そんな時に、ご本部で行われた新任部長教育に参加させて頂きました。そこで、**「お役を頂いたことは、私にとっての真因(自分の因縁や使命)であり、自分が願って生まれてきたのです」**と、教えて頂きました。**「やる気がある・ない、できるか・できないかではなく、やるしかない(光祥次代会長)」「真心で正直で、一生懸命お役をさせて頂けばよい(会長先生)」**と、教えて頂きました。自分が女子部長になることを願って生まれ、お役を頂いていることが有り難い、一生懸命させて頂こうと思える様になりました。

また、お手取りが大好きという副女子部長さんとお話しをさせて頂きました。なぜお手取りが好きなのか聞くと、**「お手取りに行くと、相手のことが考えられるから。自分の事を考えることが無くなって、相手のことを思って心配できるから好き」**と教えて頂きました。

私はお手取りに行かなければならないと思っていましたが、お手取りに行くことで相手のことを考えられると教えて頂き、素直に行ってみたいと思えました。

お役を頂いたことやお手取りを否定的に見ていましたが、肯定的に思うことで気持ちはすっと軽くなり喜びでいっぱいになりました。会長先生のご法話で、**「ものごとを多面的に見ると、どれほどつらく苦しいことの中にも必ず有り難いと思える要素が見出せます。なぜなら、この世に無駄なものは一つとしてないから」「この世で起こる様々な出来事も、その一つ一つを実相として肯定していかなければなりません」「どれほどつらいことも人生を豊かにする賜りものであり、すべては肯定すべき感謝の対象にほかならないのです」**とあります。物事を肯定的に受け止められない時のポイントとして、**「人を否定する気持ちが拭えない時、『やさしさを忘れていないか』。現象を肯定できない時には『素直さを失っていないか』」「自分の思い、つまり我で物事を見るとき、人はやさしさや素直さを見失いがちなのです。ものごとを肯定して見るとは、大らかに楽々と生きるということです」**と教えて頂いています。

お役が嫌だ、お手取りに行きたくないと思っている時の自分は、**相手を思う優しさや素直さを失っていました。**今後は、物事を肯定的に捉えられるよう、やさしさと素直さを忘れていないか振り返り、女子部長として、明るくやさしくあたたかい向日葵のような存在になれるよう日々精進していきたいと思います。有難うございました。

合掌

輝く！！　会員さん！　～京南支部　石田祐三・奈由さん～

昨年の９月16日に結婚しました。

共通の友人の紹介で知り合いました。第一印象は「大人しくて、可愛い子」(祐三さん)。「なぜか、初対面の感じがしなかった」(奈由さん)。出会いから半年間は、ただの友達同士。でも、お互いに「自然体でいられた」(祐三さん)。「家族思いで、真面目な人」(奈由さん)だったので、真剣交際に発展しました。

ある時、喧嘩をして２ヶ月間ほど離れました。でも、それでお互いの大切さに気付き、結婚を決意しました。

「楽しく、明るく、笑いの絶えない家庭にしたい」と、思っています。どうぞ、宜しくお願い致します。

私たちの愛ことば

ありがとう♡

ありがたかったこと、嬉しかったこと、大変だったこと、取り組んでいることなど、渉外部スタッフまでお寄せ下さい。

節分会　～福は内、鬼も内で盛大に豆まき～

２月３日、節分会が教会法座席で行われ、多くの会員が参拝しました。式典は読経供養、国会議員挨拶、年男・福娘・厄年紹介、佐藤教会長お言葉と続きました。年男・福娘・厄年紹介では各支部長が自支部の会員名を読み上げ、一人ひとりが立ち上がって礼を行うたびに会場からは温かい拍手が沸き起こりました。今年は４４名が該当しました。

佐藤教会長はお言葉の中で、一白水星の年廻りについて触れ、「ぶつかる」「衝突する」といった特徴や、「一体感・協力・結合」が生まれることも一白水星の特徴であると説明されました。

また曹洞宗の僧侶である良寛和尚が思いやりの言葉や愛語を使うお坊さんだったと述べ、**「美しい言葉、優しい言葉、人を思う言葉を使えば使うほど、喉ぼとけがさらに仏の姿に近づき、不平不満、攻撃、非難、中傷を使うと仏の姿から遠のくと言われていた」**と説明されました。そして言葉の使い方に気を付けて、「ぶつかる」「衝突する」ことのないよう、良寛和尚のようにしていきたいと述べられました。最後に酉年にちなんで、**「鶏は一日一個卵を産むので、私たちも一日一人お導き出来るようになりたい」**と精進を促されました。式典後、年男らが豆を撒き、会場は大いに沸きました。

京都・祇園祭ボランティア２１総会　～祇園祭を地元青年団体の力で～

２月２４日、**「京都・祇園祭ボランティア２１」**の平成２９年度総会が、京都商工会議所で行われ、京都教会青年部を含む加盟２５団体の代表者が出席しました。前年度の事業・決算報告、役員改選、次年度の事業・予算について審議されました。

引き続き、次年度も植田恭司京都教会渉外副部長が情報ネットワークの副委員長に選任され、祇園祭当日は無線担当として祭りの運営を陰ながら支えることになりました。今後、毎月の準備委員会を重ねていきながら、７月の本番を迎えることになります。

本部ホームページから　～「佼成」のページが便利になりました～

本部ホームページの「佼成」のページ（http://www.kosei-kai.or.jp/kaichohowa/）が便利になっています。音声で拝聴出来るようになりましたので、ぜひパソコンやスマートフォンからご覧下さい。

電子版　「会長法話」の電子版がお読みいただけます。パソコンのほか、スマートフォン、タブレットなどの端末でもご利用いただけます。

多言語版　「会長法話」や「開祖随感」が各国の言語でご覧になれます。随時更新しています。

朗読 MP3　会員ボランティアの方々が朗読した「会長法話」が音声で視聴できます。

podcast　「会長法話」の音声朗読版を podcast で配信しています。スマートフォンに登録すると更新通知が届きます（登録には podcast のアプリが必要です）。

法華経にみる平和の教え『法華経の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

今年の８月に比叡山宗教サミットが行われます。1987 年に第１回目が開催され、今回は 30 年目という記念の年を迎えます。庭野開祖は世界平和の基盤は宗教協力にあると考え、行動されてきました。世界中の宗教者の方たちが平和に向けた行動が広がっています。そして、開祖は「宗教の本義は、本来一つである」という理念によって、宗教協力をすすめてこられたと言います。今回は、この点を学んでいきます。　（編集部）

その理念も、『法華経』のなかに確固たる文証があるのです。すなわち、「如来神力品（にょらいじんりきほん）第二十一」の中に、次のような一節があります。

「即時に諸天（天界のもろもろの善神たち）、虚空の中において声高に唱えていわく、此の無量無辺阿僧祇の世界を過ぎ（この広々とした宇宙の中に）、国あり娑婆と名（なづ）く、この中に仏います、釈迦牟尼仏と名（なづ）けたてまつる。今諸の菩薩摩訶薩の為に、大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名（なづ）くるを説きたもう。汝等当（なんだちまさ）に深心に随喜すべし。また当に釈迦牟尼仏を礼拝し供養すべし」

妙法蓮華というのは、「あたかも泥の中に咲く蓮の花のように、俗世の中に生活をしながら、その汚濁に染まることなく、清らかで自由自在な人生を送ることができるように世の人びとを導く、この上もないすばらしい教え」という意味です。

教菩薩法というのは「菩薩を教化するために説かれた教え」ですが、内容的にいえば「みずからを高める修行をするとともに、多くの人びとのために慈悲の行を実践してこそ、最高のめざめの境地に達することができるのだ」と解していいでしょう。

仏所護念というのは「仏（真理にめざめた人）が、真理の秘要（奥深い要点）中の秘要として大切にされ、正しく広まるよう護り念じてこられた教え」ということです。

この三つの言葉は、法華経の**内容と目的と価値**を端的に表現されたものです。法華経というのは固有名詞ではなく「ありとあらゆる人間に、宇宙の真理を教え、ほんとうの生き方へ導く、真実・最高の教え」という普通名詞なのです。

ところが、真実・最高の教えというものに二つあるはずはありません。形の上では、色々な表現がとられていても、根本義においては必ず一つであるはずです。

現在においては、人間を向上させるはずの教えが、それぞれかってな方向を向いており、しかも、それぞれの宗教や宗派が、あるいは利己的な、あるいは排他独善的な思想や感情を持っていますので、どうしても対立的なすがたをとらざるをえなくなっています。

また、民衆の生活に安楽をもたらすはずの政治についても、さまざまな理念が対立し、かんじんの民衆を忘れて闘争し、安楽どころか、かえって苦しみを増大させ、破滅の危険すら内蔵しているのです。

いろいろな宗教や思想が、釈迦牟尼仏が説かれた真理尊重・人間尊重・調和尊重の精神に帰一すれば、そのときこそ、地上に理想の浄土が実現し、物質文明とともに、高度な精神文明がそこに開花し、娑婆世界がほんとうの意味で、宇宙の中心となることができるでしょう。

ここに説かれているのは、そういう理想であって、未来においては、すべての教えがただ一つの根本義に帰一するという意味で、昔から＜未来教一（みらいきょういつ）＞を示しているといわれているわけです。

この「神力品」を知ってから、「教えは一つ」ということが、深く、私の心に焼き付き、それを宗教協力の信条とするようになりました。

３～４月の主な教会行事

3 月 1 日(水)	9:00～	朔日参り
4 日(土)	9:00～	開祖さまご命日
5 日(日)	9:00～	創立記念日
10 日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
17 日～23 日	9:00～	春季彼岸会(各地区)
4 月 1 日(土)	9:00～	朔日参り
2 日(日)	9:00～	花まつり
4 日(火)	9:00～	開祖さまご命日
8 日(土)	9:00～	降誕会
10 日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
13 日(木)	7:00～	議員懇話会
15 日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

節分を迎え、本当の意味で新年を迎えました。今年は一白水星の年廻りで「ぶつかる」「衝突する」という特徴の反面、「一体感・協力・結合」が生まれると教えて頂きました。「衝突する」と聞いて過激な発言が続くトランプ大統領を思い出してしまいました。年廻りの特徴があるにせよ、そこに介在するのは「人」であることに違いはありません。ぶつかるのも人、協力し合うのも人です。そしてその「人」は心の持ち方、受け止め方で変わると教えて頂きました。世間には常に衝突因縁の持ち主の方もいらっしゃいますが、信仰をもった我々が中心となって、その場に**協力し合おうという空気や、一緒に取り組んでいこうという一体感**を生み出せるようになっていきたいと思います。